

デジタルアーツ株式会社
(証券コード 2326)



平成28年3月期 通期決算
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

補足説明資料
平成28年5月11日 (水)

平成28年3月期 通期決算補足説明資料

決算のポイント

① 高度化・巧妙化する標的型攻撃

- 情報漏洩対策、プロキシの重要性が再認識される
- 他社製品との連携等による即時的な標的型攻撃対策が多様で複雑なリスクへの対応を必要とするお客様のニーズを捉え、売上が拡大

② 相次ぐ情報漏洩事故・関連法制度への対応などを背景としてセキュリティに関する関心が高まる

- 社内の機密情報、顧客情報をどのように守るか
- FinalCode Ver 5 の共有フォルダ監視・自動暗号化が好評
(受注額ベースで昨年度の約4倍の伸び)

③ FinalCode, Inc.において海外初の受注獲得 海外ブランディングで成果

- 14件の契約を獲得 (内、現地企業：5件 日系企業：9件)
- マーケティング面で大きな成果

平成28年3月期 通期決算補足説明資料

連結決算ハイライト

連結売上高

売上高： 4,000 百万円
 (前期比 +597百万円 / +17.6%)
 (予算比 +50百万円 / +1.3%)

主力製品であるi-FILTERが17.6%成長（前期は8.0%成長）したことや、国内FinalCode販売の好調により対前期大幅増収

営業利益

営業利益： 1,006 百万円
 (前期比 +141百万円 / +16.4%)
 (予算比 +6百万円 / +0.6%)

米国子会社・海外展開の戦略的先行投資あるも売上の増加で吸収し、営業利益ベースでも増益を果たす

経常利益

経常利益： 994 百万円
 (前期比 +84百万円 / +9.2%)
 (予算比 △8百万円 / △0.9%)

増益傾向なるも、為替相場変動の影響（前期：為替差益 41百万円 当期：為替差損 △20百万円）により若干の予算未達となる

親会社株主に帰属する
 当期純利益

当期純利益： 545 百万円
 (前期比 +14百万円 / +2.8%)
 (予算比 △31百万円 / △5.5%)

本業は順調なるも、米国子会社で投資が先行し、税金費用等の負担が重くなったことを主要因として若干の予算未達となる

平成28年3月期 連結通期業績

(単位：百万円)

項目	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比	通期予想※
売上高	3,402	4,000	+17.6%	3,950
売上総利益	2,428	3,074	+26.6%	3,050
販売管理費	1,562	2,067	+32.3%	2,050
営業利益	865	1,006	+16.4%	1,000
経常利益	910	994	+9.2%	1,003
親会社株主に帰属する 当期純利益	531	545	+2.8%	577
ROE	13.3%	12.4%	—	—
1株あたり配当金	14円	15円	—	—

※ 平成28年3月期の予想は、平成27年10月29日公表の業績予想

平成28年3月期 個別通期業績

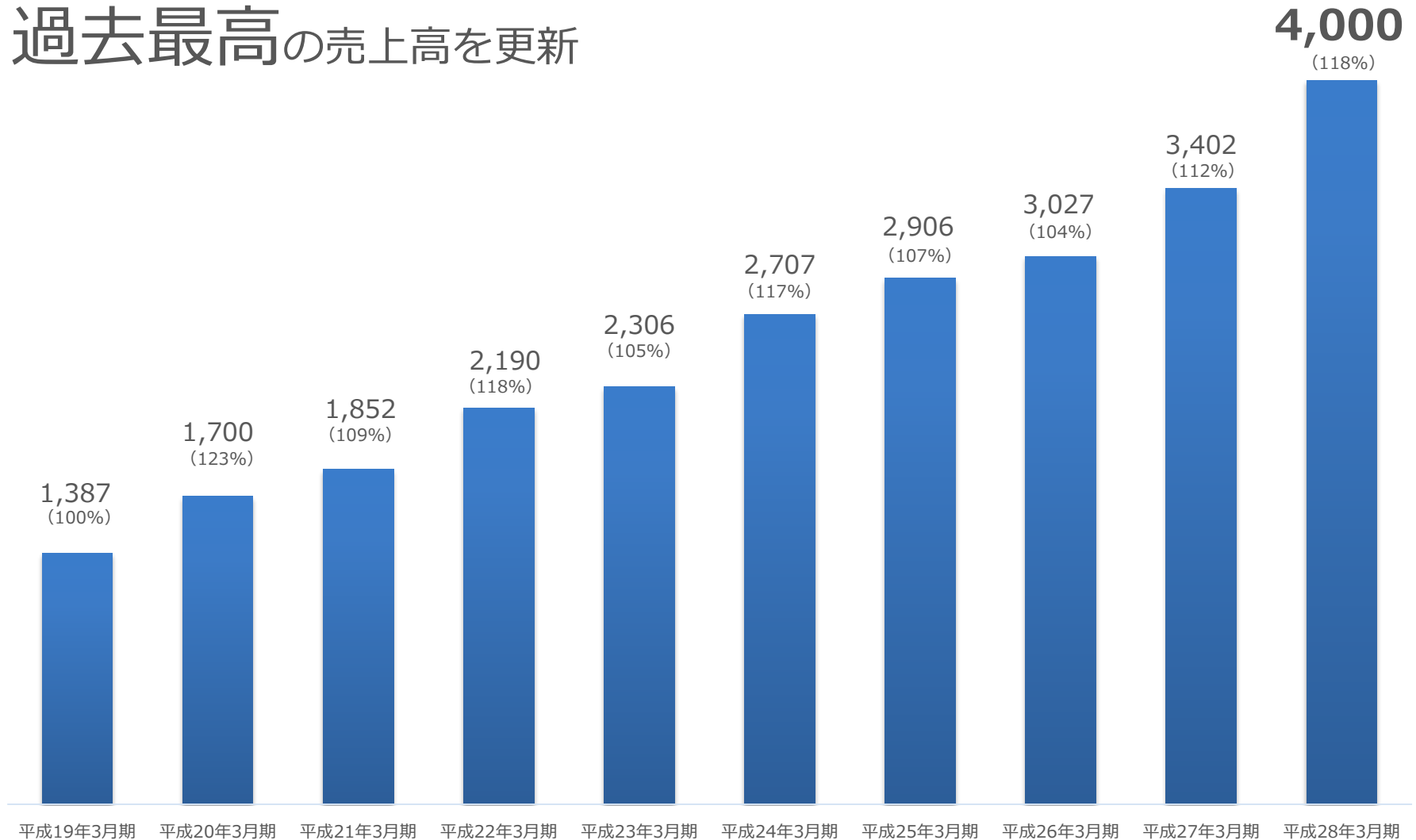
(単位：百万円)

項目	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比	通期予想※
売上高	3,395	4,018	+18.3%	3,915
売上総利益	2,479	3,123	+26.0%	3,093
販売管理費	1,565	1,788	+14.3%	1,696
営業利益	913	1,335	+46.1%	1,397
経常利益	926	1,328	+43.5%	1,399
当期純利益	573	840	+46.4%	924
ROE	14.0%	18.0%	—	—
1株あたり配当金	—	—	—	—

※ 平成28年3月期の予想は、平成27年10月29日公表の業績予想

(単位：百万円)

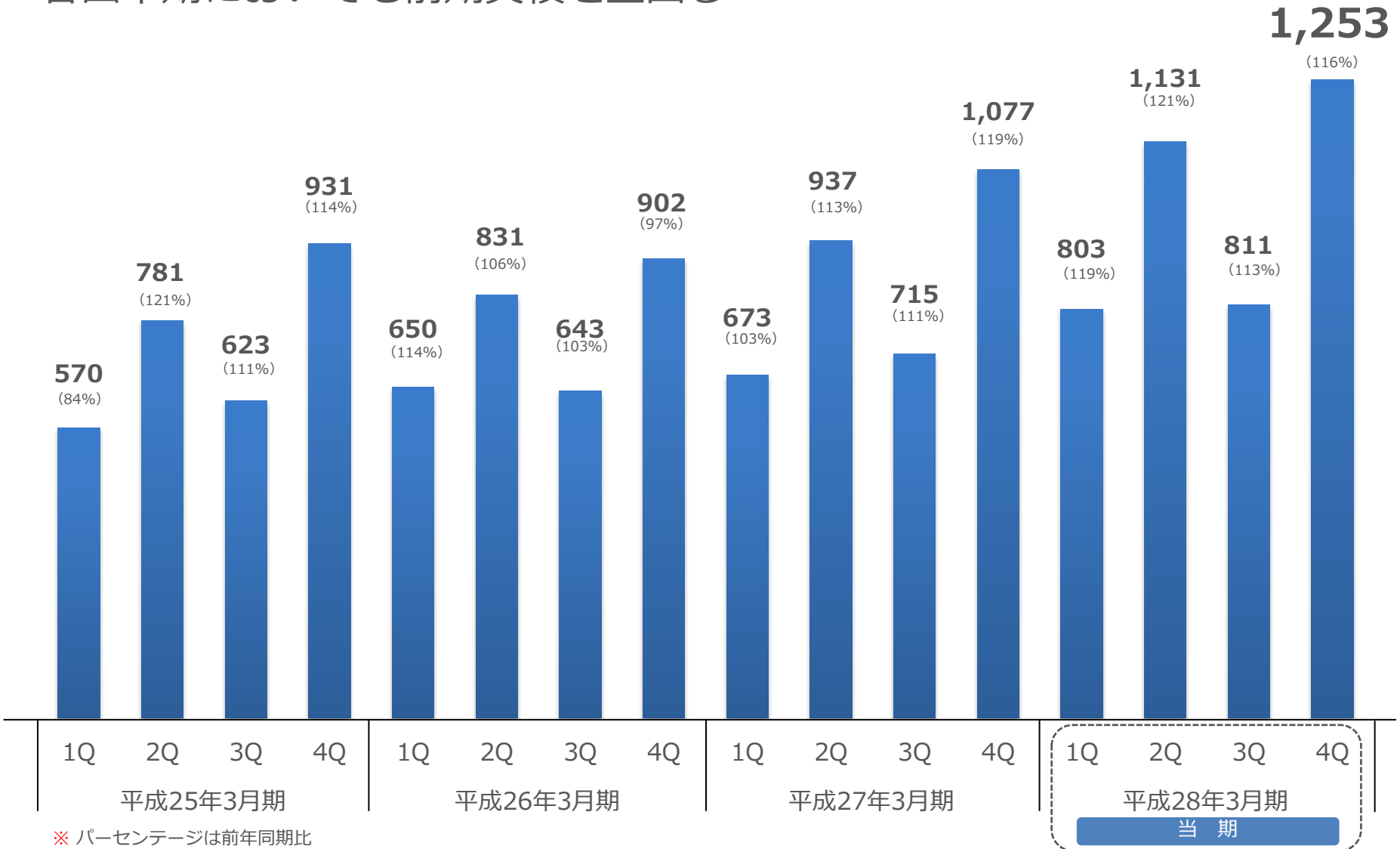
過去最高の売上高を更新



※ パーセンテージは前期比

(単位：百万円)

各四半期においても前期実績を上回る



※ パーセンテージは前年同期比

- 減価償却負担が減少し、売上原価は減少
- 販売費及び一般管理費はFinalCode, Inc.等の海外展開が本格化したことを主要因として増加

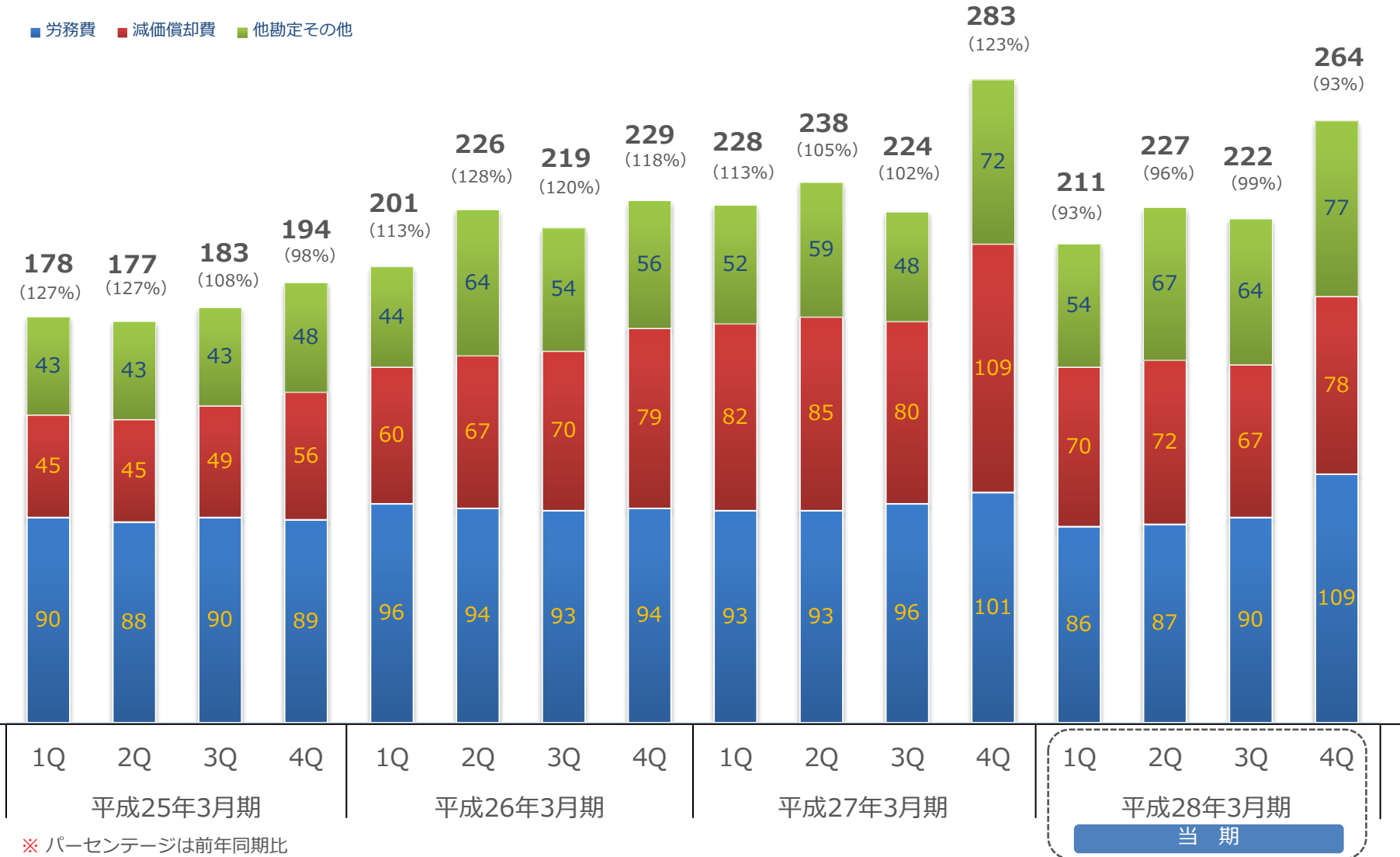
(単位：百万円)

項目	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比	主な増減要因
売上原価	974	926	△48	
労務費	384	373	△10	
減価償却費	357	288	△68	過去の大規模開発に伴う減価償却が前期で完了
他勘定振替 その他製造原価	232	263	+31	
販売費及び一般管理費	1,562	2,067	+504	
人件費	805	1,115	+309	内、海外人件費 +191M
広告宣伝費	158	271	+113	内、海外分 +61M
その他	599	680	+81	内、海外分 +43M

(単位：百万円)

売上原価については各内訳項目とも著変なし

■ 労務費 ■ 減価償却費 ■ 他勘定その他

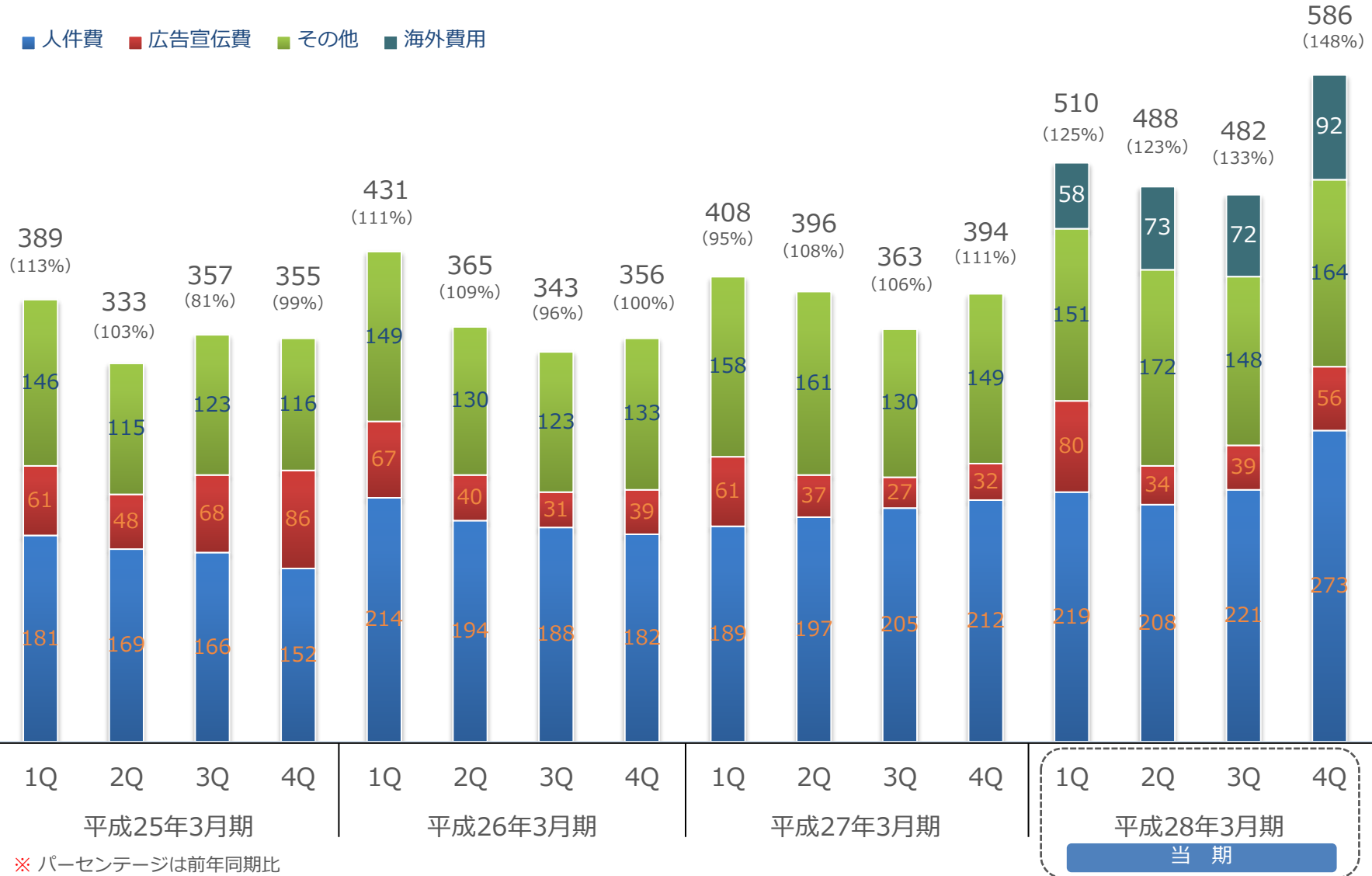


※ パーセンテージは前年同期比

販管費及び一般管理費は海外に対する戦略的先行投資により増加

(単位：百万円)

■ 人件費 ■ 広告宣伝費 ■ その他 ■ 海外費用



※ パーセンテージは前年同期比

平成28年3月期 通期決算補足説明資料

市場別詳細

- 連結全体で +17.6% の成長（前期は+12.4%の成長）
- 企業向け市場 +17.9%（前期は+16.0%の成長）・公共向け市場+24.4%（前期は+10.8%の成長）と成長率が加速
- 家庭向け市場においては、国内のパソコン出荷台数が大幅に減少する中、底固く推移

連結売上高

売上高：4,000 百万円 （前期比 +597百万円 / +17.6%）

企業向け市場

売上高：2,240 百万円 （前期比 +340百万円 / +17.9%）

公共向け市場

売上高：1,418 百万円 （前期比 +277百万円 / +24.4%）

家庭向け市場

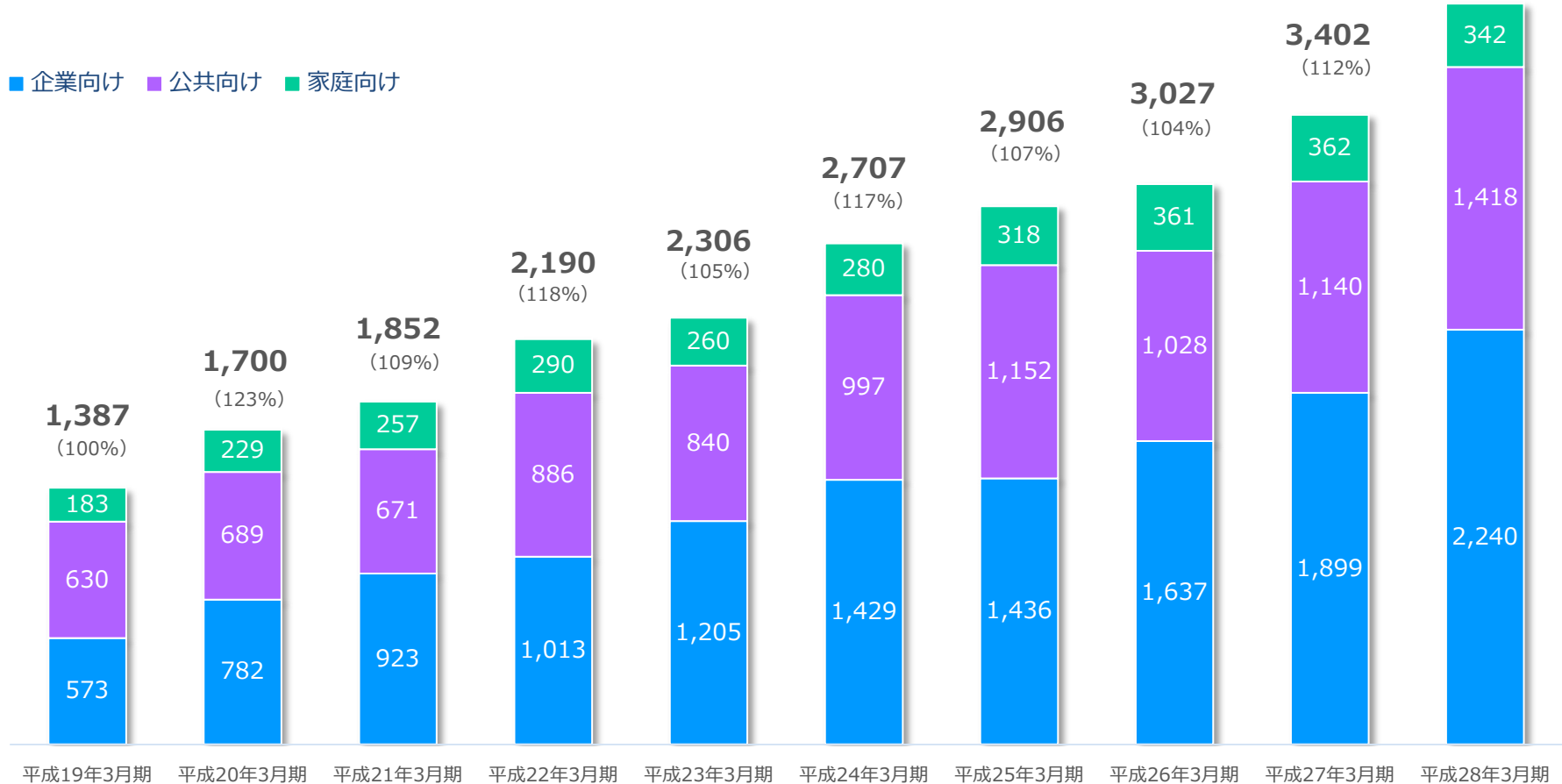
売上高：342 百万円 （前期比 △20百万円 / △5.6%）

標的型攻撃対策および社内の機密情報漏洩対策への関心が企業向け市場、公共向け市場において高まり、過年度の成長率を上回る成長を果たす

(単位：百万円)

4,000
(118%)

■ 企業向け ■ 公共向け ■ 家庭向け

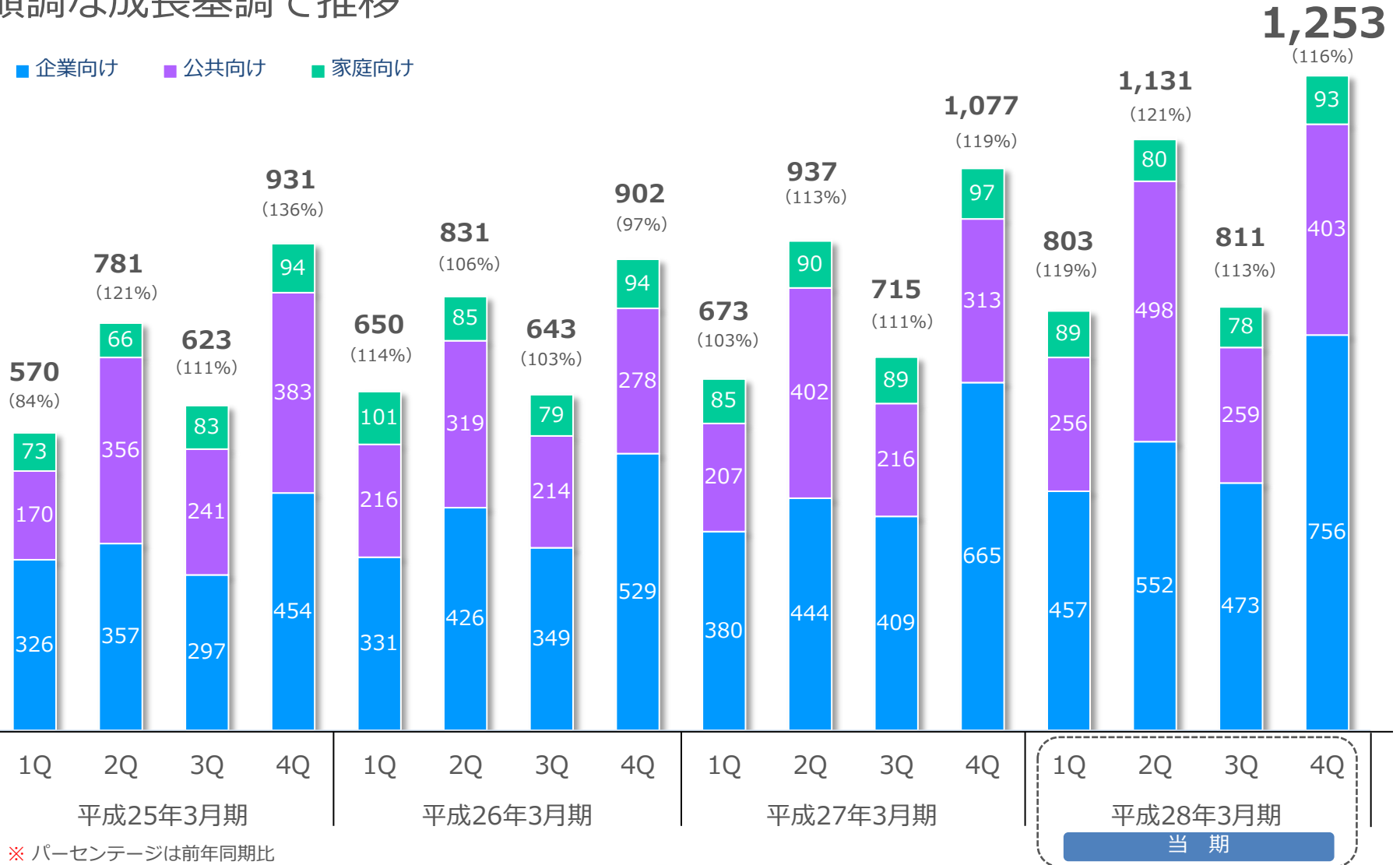


※ パーセンテージは前期比

企業向け、公共向け共に各四半期において対前年同期比
順調な成長基調で推移

(単位：百万円)

■ 企業向け ■ 公共向け ■ 家庭向け



※ パーセンテージは前年同期比

平成28年3月期 通期決算補足説明資料

企業向け市場

- 主力製品である「i-FILTER」「m-FILTER」、戦略製品である「FinalCode」の販売が順調に推移
- 多様で複雑なリスクへの対応を可能とする「i-FILTER」・「m-FILTER」と他社製品の連携が大手企業のニーズを捉え、大規模新規案件の獲得が進む
- 「FinalCode」については頻発する重要情報の漏洩事故を背景としてセキュリティ対策を急ぐ企業等に導入が進む

i-FILTER + 13.8 %

m-FILTER + 15.0 %

ID-SPA + 39.6 %

FINALCODE + 257.0 %



平成28年3月期 通期決算補足説明資料

公共向け市場

- 主力の「i-FILTER」の販売が順調に推移すると共に「FinalCode」の販売が拡大
- 「i-FILTER」と他社製品の連携によるセキュリティ強化を求める大規模団体を対象とした大規模新規案件の獲得が進む
- タブレット端末等を活用した「ICT教育」を推進する動きがみられ、「i-FILTER ブラウザー＆クラウド」（モバイル端末版）の導入が進む

i-FILTER + 22.9 %

m-FILTER + 5.8 %

ID-SPA + 42.8 %

FINALCODE 13.5 倍



平成28年3月期 通期決算補足説明資料

家庭向け市場

- パソコンの国内出荷台数が大幅に減少していることを主要因としてパソコン版の「i-フィルター」売上は減少
- 1つのシリアルIDで複数のOSでの利用が可能な「i-フィルター® for マルチデバイス」の販売が好調に推移
- 前期に導入された任天堂株式会社の携帯型ゲーム機「Newニンテンドー3DS™」向けの売上が順調に積み上がる

パソコン版

△ 28.1 %

ゲーム機/TV版

+ 29.3 %

モバイル端末版

+ 41.6 %

i-フィルター



平成28年3月期 通期決算補足説明資料

海外市場

■ 平成28年3月期 売上実績

- ✓ 14件の契約を獲得（内、現地企業：5件 日系企業：9件）

■ マーケティングでは大きな成果

- ✓ グローバルなセキュリティベンダーのアワードを獲得するなど、マーケティングでは大きな成果があった



46位



平成28年3月期 通期決算補足説明資料

平成29年3月期 通期業績予想

平成29年3月期 連結業績予想

- 国内を中心に平成28年3月期の市場環境が継続すると想定
- 海外については、案件は着実に積み上がるも計画上是保守的に見込む
- 海外投資関係も前年比微増に留まるため、利益成長が加速する見込み

項目	平成28年3月期実績	平成29年3月期計画	成長率/増減率
売上高	4,000 百万円	4,600 百万円	15.0 %
売上総利益	3,074 百万円	3,652 百万円	18.8 %
販売管理費	2,067 百万円	2,252 百万円	9.0 %
営業利益	1,006 百万円	1,400 百万円	39.1 %
経常利益	994 百万円	1,400 百万円	40.8 %
親会社株主に帰属する当期純利益	545 百万円	870 百万円	59.5 %
1株当たり配当金	15 円	20 円	—

平成29年3月期 個別業績予想

- 国内市場については平成28年3月期の好環境が継続すると想定

項目	平成28年3月期実績	平成29年3月期計画	成長率/増減率
売上高	4,018 百万円	4,598 百万円	14.4 %
売上総利益	3,123 百万円	3,555 百万円	13.8 %
販売管理費	1,788 百万円	1,843 百万円	3.0 %
営業利益	1,335 百万円	1,712 百万円	28.3 %
経常利益	1,328 百万円	1,712 百万円	28.9 %
当期純利益	840 百万円	1,182 百万円	40.7 %

■ 配当について

株主の皆様に対する利益還元につきまして、以下の通り計画しております

平成29年3月期の目標配当性向を連結当期純利益の32.0%

平成29年3月期年間剰余金配当予想額は1株当たり20.00円

	1株当たり配当金			連結配当性向
	中間	期 末	合計	
平成28年3月期	7.00	8.00	15.00	38.2%
平成29年3月期（予想）	10.00	10.00	20.00	32.0%

平成28年3月期 通期決算補足説明資料

平成29年3月期の取り組み

■ 企業および公共向け市場の取り組み

i-FILTER (サーバー版)

- 引き続き新規顧客として成長が期待出来る大手企業のお客様への販促を推進
 - ✓ 他社製品との連携による精度の高い標的型攻撃対策を積極的に展開し、大手企業のニーズに合わせたソリューションを提供
- 「自治体におけるセキュリティ強靱化を図るための指針」への対応
 - ✓ 他社製品等との連携を図りながら、自治体向け情報セキュリティ対策を訴求

i-FILTER (モバイル端末版)

- 新機能開発による新市場への参入
 - ✓ 新規顧客の獲得を目的とした新機能開発を行い、従来未対応であったセグメントへの対応を進める

m-FILTER

- 「自治体におけるセキュリティ強靱化を図るための指針」への対応
 - ✓ 第一弾として自治体向けに導入コストや運用面で負担の少ないメール無害化機能を6月末より提供開始

■ 企業および公共向け市場の取り組み

FinalCode（国内）

- 平成28年3月期、特に下半期から飛躍的に増加した案件に対応するため、大規模重点案件についてはコンサルティング業務、その他販売支援を強化し確実に獲得していく
- 公共向け市場に対しては、自治体等の業界特性を踏まえ、自治体等に必要な機能に絞りシンプルな運用を可能とする自治体限定版を自治体向けの価格帯で提供する

■ 家庭向け市場の取り組み

i-フィルター（モバイル端末版）

- 国内パソコン出荷台数の大幅な減少等、引き続き厳しい市場環境が継続するものと予測されるが、MVNO含む携帯電話事業者やOEM提携先と連携し、スマートフォン向け「i-フィルター」や1つのシリアルIDでWindows、iOS、Android™の3つのOSで利用可能な「i-フィルター for マルチデバイス」（平成27年3月発売）の拡販を継続

■ 海外市場の取り組み

FinalCode, Inc.

- マーケティングでの成果を活かし具体的な販売活動を強化
 - ✓ パートナー開拓と育成をすすめ、ローカル案件の積上げ・獲得を進める
 - ✓ マーケティングのパフォーマンスを維持しつつ、デジタルマーケティングを更に強化する

FinalCode Asia Pacific Pte.Ltd.

- 事業運営基盤を構築
 - ✓ シンガポールのみならず、オーストラリア・ニュージーランドにおける販売網の構築、流通業者の開拓を行う
 - ✓ 他企業とのパートナーシップの構築を行う

FinalCode Europe Limited

- 組織体制の構築を急ぐ
 - ✓ 経験豊富な人材の確保、組織体制の構築を最優先課題と位置づけ、可及的速やかに販売を開始する

■ 海外市場の取り組み

グローバルでの販売活動・サポート体制構築を引き続き進めてまいります

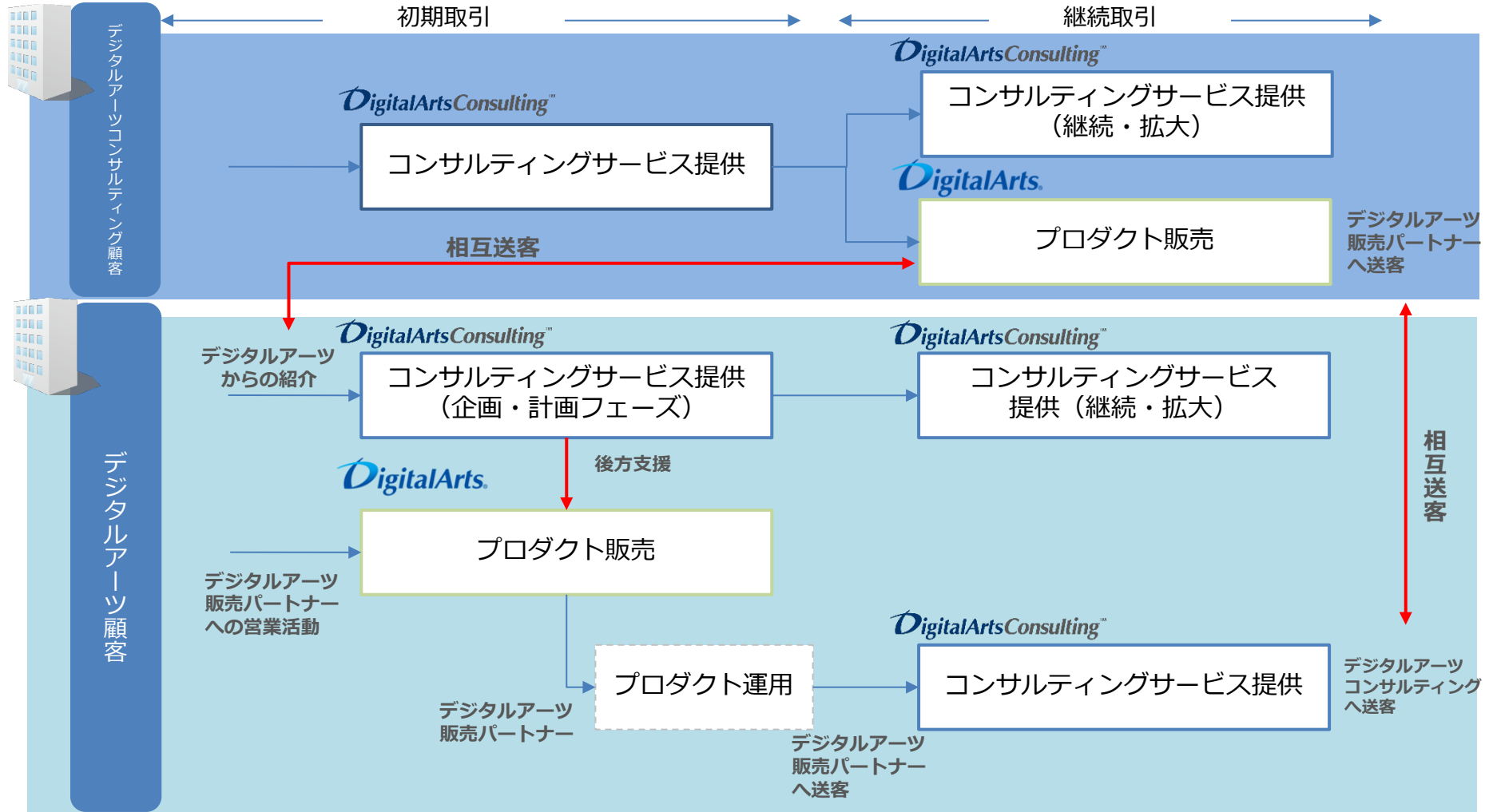


デジタルアーツコンサルティングについて



平成28年4月1日に「デジタルアーツコンサルティング株式会社」を設立いたしました

デジタルアーツコンサルティングが開拓した顧客にデジタルアーツ製品の販売を行うとともに、デジタルアーツのお客様に対してコンサルティングを提供するルートを構築することで、グループ全体でお客様のニーズに応じてまいります



本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち歴史的事実でないものは、将来の見通しに対する記述であります。本見通しは、当社経営陣が現在入手可能な情報に基づき判断したもので、環境等の変化により大きく見通しの変動する可能性があり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。今後、重要な変化がある場合は適宜開示します。

本プレゼンテーションの基本的な数値の記載は、一部を除き百万円未満を切り捨てて表示しています。

- ・デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルター/i-FILTER/i-FILTER EndPoint Controller、m-FILTER/m-FILTER MailFilter/m-FILTER Archive/m-FILTER Anti-Spam/m-FILTER File ScanおよびD-SPA はデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- ・FinalCode はデジタルアーツグループの登録商標です。
- ・その他、記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

DigitalArts®

-より便利な、より快適な、より安全な
インターネットライフに貢献していく-